

開催コース/富士スピードウェイ・ショートコース (静岡県)
 主催/日本スーパーカート協会
 開催日/7月17日
 天候/晴れ 路面状況/ドライ
 Report&Photo/月刊JAPAN KART



2016 文部科学大臣杯 JAPANKART CUP with HDX Rd.3



富士ショートコースはFTRS校長の関谷正徳氏が監修しただけにかなり手強いレイアウト。とくにホームストレートの下り勾配から1コーナー先に差し掛かる登りへの変化は高い集中力が要求される



総合トップの靖亜 with J.M.P.。そのファーストドライバーは次男の生方靖亜が務め、1時間20分というロングドライブをこなして父、生方潤一にバトンを託す。レース後、「父ちゃんはやっぱり速いなあ」と感想を漏らしていた



▲GTM表彰式。普段は富士のカートコースのシリーズ戦に参戦するドライバーたちだ



▲唯一のKTクラス参戦チームだった「チームあさって」が筋肉痛。チーム名が秀逸



▲WR250クラス。名前の通りヤマハの高性能エンジンWR250を搭載する迫力のクラスだ

ジャパンカートカップ第3戦は毎年恒例、走行時間が倍プッシュとなる真夏の2時間耐久イベントだ。

今年もSLサマーフェスタとの併催になり、富士のカートコースで開催されているカート de Go! 組みの参戦もあって、非常に賑やかな雰囲気で行われた。

この日、雨の心配があったのだが曇曇りが続き直射日光が遮られたことで例年より過ごしやすいコンディションに。それでも蒸し暑さは強烈で、ドライバーの体力は確実に削られたことだろう…。

総合トップはミッションの靖亜 with J.M.P. がゲット。1時間20分を息子の靖亜が走り、残り40分は父の生方潤一がピシヤリと締める親子ならではの素晴らしいチームワークでの勝利だった。

総合2位は那未 with J.M.P. だ。ファーストドライバーの佐藤那未はスポーツカートからスタートした選手だが、めきめきと腕を上げ、今や表彰台の常連選手となっている。今回、そんな佐藤の相棒を務めたのが横堀紀之。普段は榛名モータースポーツランドのシリーズ戦に出る選手で、クラッシュや事故が多いのが玉に瑕なのだとか。

しかし、今回は佐藤のポイントが掛かっているのでセーフティドライブに徹し、2人で207周を無事に走りきった。